

***Sedum Thomsonianum* H. Ohba, nom. nov.**

S. elongatum Wall. ex Hook. f. et Thomson in Journ. Proc. Linn. Soc. 2: 98 (1858), non Ledebour (1844-46).

Literature cited

Fröderström, H. 1930. The genus *Sedum* L. A systematic essay. Part 1. Acta Horti Gothoburgensis 5: Appendix 75pp. (esp. 43-45). Praeger, R.L. 1921. An account of the genus *Sedum* as found cultivation. Journ. Royal Hort. Soc. 46: 1-314 (esp. 41-49).

* * * *

ヒマラヤ地方はペンケイソウ属の分布の中心のひとつで著しい多様性を示している。また外部形態の変異の幅も広く、しばしば種間の区別がむずかしくなる場合も多い。この地方からはすでに 50 種類以上のペンケイソウ属植物が発表されているが、研究が進むにつれて未知の種類と思われるものも見出され、また既知の種類の再検討も必要になってきたのでそれらを順次発表してゆきたいと思う。

1. 東京大学第 5 次インド植物調査 (1972) の際にカルカッタにあるインド国立中央植物標本館でペンケイソウ科の標本を検討することができた。その中に、古くシッキムとブータンの間に突き出したチベットの Phari と Kang Loo で採集されたイワペンケイ属 (*Rhodiola*) の標本が数点あり、研究の結果新種と判り *Sedum phariense* として報告した。花序に苞葉のあることなどから、*S. bupleuroides* に近縁の一種と考えられ、特に *S. bhutanense* に近い性質を示している。しかし、小形の両性花をもつことや、花序の軸が無毛でかつ微小突起などを生じぬことなどで明らかに区別される。欧文欄に詳しい記載を発表した。

2. *Sedum elongatum* Wall. ex Hook. f. et Thomson には先行する同名の植物があるので *Sedum Thomsonianum* という新名を提唱した。本種は後に Praeger が発表した *S. bhutanense* に近い種類であるが、葉に明らかな柄のあること、花序には苞葉が多く花がまばらに着くこと、さらに花序の軸が有毛な点などで異なる。

□ J. C. Willis: **A Dictionary of the Flowering Plants & Ferns.** ed. 8. Revised by H. K. Airy Shaw. Cambridge Univ. Press. 1973. 8,800 円。シダ植物以上の科名、属名が殆んど網羅されているので非常に便利な本である。1966 に出された 7 版から 40 頁ほどふえている。これはその後の新属が入れられたことにもよるが、主にラン科植物の属間雑種名を新たに加えたことによるようである。末尾に本書でとりあげた科名と、Melchior 編の Engler's Syllabus 及び Bentham & Hooker の Genera Plantarum であつた科名との対照表が新たに加えられている。(山崎 敬)